

セッション討議内容の記録

セッション名:交通行動調査	
日付:11 月 3 日 月曜日、セッション時間: 13:15 ~ 14:45	
司会者名(所属):日比野 直彦(政策研究大学院大学 大学院 政策研究科)	
討 議 内 容	セッション全体: ・交通実験も大きな意味で調査と捉えれば、3 編の論文とも調査方法の提案とその結果の考察である。しかしながら、その対象、方法も全くことなるものであり、3 編を通した議論ではなく、個々の研究に対してディスカッションがなされた。
	(発表番号) 発表者名(所属):(242) 寺内 義典(国土館大学) ・生活道路の移動者と活動者の両方から歩行者に注がれる自然な人の目を定量化した「みまもり量」を用いることにより、新たに明らかとなったことと、そのように指標化することによりわからなくなってしまうことは何か? ・防犯上問題があるという個所と「みまもり量」の値の相関は高いのか? ・移動観測を提案されているが、調査員数等から判断すると、定点観測と比較して効率的になってとはいえない。移動観測に適した道路形状等は? ・生活道路の安全・安心ということをメインにしたいならば、他の調査方法もあるのでは?
	(発表番号) 発表者名(所属):(243) 山根 公八(㈱福山コンサルタント) ・パーソントリップ調査に GPS 携帯電話を適用することにより、新たにできるようになったことは何か? ・被験者の位置が特定できることにより、プライバシーの侵害の問題が出てくると思われる。詳細な位置を特定しないのであれば、GPS 携帯電話でなくても、基地局からの情報等で十分ではないか? ・100 人×10 日と 1000 人×1 日では、共に 1000 サンプルのトリップデータが得られるが、その意味は異なる。サンプル数、調査日数、データの精度の関係は? ・パーソントリップ調査を実際に行うと、乗り継ぎのデータが欠損してしまうことが多々ある。それをなくすための方法は?
	(発表番号) 発表者名(所属):(244) 加藤 博和(名古屋大学) ・日本の地方都市における E S T 施策はたいへん重要であるが、それを定着させるのは非常に困難である。どれくらいの期間実施すれば、行動変容が起こるのかを明らかにすることは重要である。 ・需要が見込めるのならば、ビジネスとして成立するはず。なぜ、バス事業者は実験後に参入することが起こらなかったのか? ・送迎について、親と子のどちらに働きかけることが効果的か? ・交通の問題としてだけでなく、地域全体としての取り組みが重要であり、そのようにしていかなくてもは、実施は困難である。